

9/13/09 『イエスの不思議な言葉:「平和ではなく、剣を」』 マタイ10:34-39

主イエスの言葉の中には、理解に苦しむものが幾つもあります。今日読んで頂いた聖書の箇所はその一つです。「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、娘を母に、嫁を姑に。」

この不思議な言葉を理解するためには、それが語られた社会的背景をまず理解してかからなければなりません。

主イエスの時代のユダヤ社会は、完全なカースト社会でした。社会が押し付けた基準によって人々の優劣は決められていたのです。母は娘に君臨し、姑は嫁に君臨し、父親は息子に君臨していました。

これに対して主イエスは、神は社会の底辺にいる人々の味方だと主張されたのです。山上の説教は、そのことを印象に残る独特の語り口で話されたものです。「貧しい人々は幸いだ。悲しんでいる人々、足蹴にされている人々、差別されている人々は幸いだ。何故なら神はそのような人々と共におられるから。」

逆に、弱い者の苦しみに無関心な人々に対しては、イエスは厳しく批判しておられます。「富んでいる人は不幸だ。今満腹している人、今笑っている人、他人を軽く扱い、差別している人は不幸だ。何故ならあなたがたは神から離れているから。」

主イエスは、差別されている人が差別から解放され、軽く扱われている人が大切に扱われ、悲しんでいる人が慰めを受けることを強く望んでおられたのです。「わたしが来たのは、娘を母に、嫁を姑に、息子を父親に対立させるためだ」という一見理解に苦しむ言葉はそのことを意味しています。

つまり、人間の尊厳は、社会が決めた優劣の基準や、血縁関係とは全く無関係だと言うのです。人間の尊厳の基盤、それは人が神に愛されている、神の無限なる愛の対象だというその一事にある。この主イエスの主張を私達はしっかりと読み取らなければなりません。

抑圧され、足蹴にされていた人々が主イエスの回りを幾重にも囲んだ理由がここにあります。完全な男尊女卑の社会において、主イエスの回りに常に多くの女性達がいいた理由もここにあります。

以上が、主イエスが不思議な言葉を語られた背景とその意味です。

2000年後の社会に生きる私達に主イエスは何を語っておられるのでしょうか。

私達の社会はそれなりの基準によって人間に優劣をつけています。

その基準とは何でしょうか。社会的な地位と財力と他人の目にどのように映るかということではないでしょうか。私達現代人は、社会の基準に自分を合わせようと一生懸命なのです。それができれば、自分は価値があると思ひ、それができなければ自分は劣等だと思って落ち込んでしまうのです。

主イエスはそのような私達に語りかけておられます。「あなたの人間としての尊厳はそんなことにあるのではない。あなたの人間としての尊厳、それはわたしがあなたをこよなく愛しているというその一事にある」と。

ヨハネの福音書は記しています。「神は御子をお与えになる程に、この世を愛してくださった。」

つまり、「私は平和をもたらすために来たのではない」の平和とは、この世の価値基準がもたらす虚偽の平和のことです。「剣」とはそのような虚偽の平和に満足してはならないという警告です。虚偽の平和と戦うことができるという励ましです。

その励ましの言葉に生きて生きようではありませんか。人間としての尊厳が、価値が、主の愛に基礎付けられていることを信じ、毎日深く、正々堂々と、生き生きと生きようではありませんか。